

JAPANサッカーカレッジを紹介します Vol.8



今月号では、試合になくなくてはならない「レフェリー」の育成に取り組む様子を紹介します。

題名： **聖籠町で育成！トップレフェリーへの道**
サッカー・スポーツビジネス科 教務 石坂 学

日本全国の審判員数と新潟県の所属数（JSC関係）

プロフェッショナルレフェリー	13名	JFA契約・1級のトップ審判員…	【新潟県1名】元JSC職員・八木あかね氏（国際審判員）
JFA公認1級	212名	JFA・Jリーグ主催大会担当…	【新潟県5名】JSC卒業生・JSC職員 上原直人
JFA公認女子1級	54名	JFA・なでしこリーグ主催大会担当…	【新潟県2名】JSC卒業生 松浦波瑠夏 ※女子1級候補 JSC在学中 山口鈴佳がチャレンジ中
JFA公認2級	3,495名	地域サッカー協会主催大会担当…	JSCから多数輩出
JFA公認3級	34,480名	都道府県サッカー協会主催大会担当…	JSCから多数輩出

レフェリーの育成が日本の課題

日本サッカー協会（JFA）が2005年宣言「JFA2050年の約束」を設定し、その一つに「FIFAワールドカップを日本で開催し、日本代表チームはその大会で優勝チームとなる」の実現に向けて様々な計画を立てています。日本サッカーのレベルを上げ、世界上位で戦うためには、レフェリーのレベルアップも必要不可欠です。

JAPANサッカーカレッジでは、経験が必要で難関なJFA公認2級審判員養成校として、特別に在学2年間で2級資格の取得が可能となっています。コーチ・審判専攻科では、年間の学内授業「審判論」「審判実践」を通じて、審判活動を理論的に勉強しています。また、「サッカー指導」の授業では、審判が必要とされる「試合を読む力」も養っています。



新潟県は審判レベルの水準が高い

都会や国内中心部にはレベルの高い試合が数多く開催されます。これに応じて審判員も数多く在籍していますが、そこには成長につながる審判インストラクター（指導者）の数が少なく、なかなか審判実践の評価をしてもらえないという課題があります。

新潟県には、聖籠町のアルビレッジをはじめ、社会人・大学・高校とハイレベルなサッカー大会が数多く開催できる施設・環境が整っているため、審判の割り当てが多いです。また、審判インストラクターの指導を受けやすく、更に、あこがれの新潟県所属トップレフェリー（1級審判員）が若手の指導に力を注いでくれるなど、審判育成においては他県に比べて充実しており、新潟県一体となって審判レベルの向上に努めています。

環境に魅力を感じたJSC卒業生たちは、県外出身者であっても、聖籠町、新潟県内に就職し、新潟県所属として審判活動を行う姿が多くなってきたと感じます。これからも、日本サッカーの発展と新潟県のスポーツ振興において力を発揮してくれることを願っています。

JFAレフェリーキャラバン新潟をJSCで開催

11/25（土）・11/26（日）に開催した、日本サッカー協会主催「レフェリーキャラバンプロジェクト」は、JFA審判委員会などが各位訪問し、現状における課題や今後の方向性などを情報交換し、地域・サッカー協会と協働して、審判員の普及・育成・指導体制を更に強化していくことを目的としたものです。新潟県内のJSC学生を含めた審判員が多く集まり、講義や試合分析、審判実践などを通じて、審判員としてのスキルアップを図りましたことを報告いたします。以下にその様子が掲載されていますのでご覧ください。

URL：<http://www.jfa.jp/news/00015661/>

JFAレフェリーキャラバン 新潟 検索